



努力について考える

「体育祭に向けて早朝練習で長縄跳びの練習を一生懸命したのに」「中間テストに向けて一生懸命勉強したのに」・・・、がんばったにもかかわらず、結果が出ないことがあります。もしかしたら、「努力したって・・・」と思っている人がいるかもしれません。そこで、これまで学校通信で紹介した努力についての名言や文章を再び掲載しました。1学期末テストや総体に向けての参考にしてください。

- ◇ 努力しても報われないことがあるだろう。たとえ結果に結びつかなくても、努力したということが、必ず生きてくるのではないか。それでも報われないとしたら、それはまだ努力とは呼べない。(王貞治)
- ◇ 努力した者が全て報われるとは限らない。しかし、成功した者は皆努力している。(森川ジョージ)
- ◇ 努力する人は希望を語り、怠ける人は不満を語る。(井上靖)
- ◇ 運というのは、つかむべく努力している人のところへ訪れてくる。(衣笠祥雄：元プロ野球選手)
- ◇ 人から言われてやった練習は努力とは言わない。(満田拓也『MAJOR』から)
- ◆ 100m掘れば原油が出る。しかし、今が99mなのか30mなのかはわからない。ましてや掘っていくにつれて、精神的な疲労や資金、人の協力も厳しさを増してくる。明らかに、掘り始めよりも目的に近くなった方が辛いのだ。掘り方を変え、掘る方向も変えて、休みながらかもしれないがとにかく掘りつづける。いつ100mに達するのか分からない、だから面白いのだ。(石油王・中野貴一)

◆ 努力の水 ◆

からっぽで透き通っていない花瓶の中に、コップの水を毎日何杯も入れていくとします。その小さなコップの水は、君たちの努力を表しています。1杯、2杯、…。水の注がれる音だけが聞こえています。

さて、この水が花瓶の中にたまっていく様子、努力の水がたまっていく様子は、まったくわからないし、見えません。しかし、毎日こつこつと努力の水を注ぎ続けると、ある日、突然、水はあふれ出します。つまり、努力した結果が目に見えてわかるようになる瞬間がやってきます。もし、花瓶のふちのところまで水が入っているのに、それに気づかず、「今まで一生懸命頑張ったつもりだけど、やっぱり無理だ」と、それ以上努力することをあきらめたら、どうなりますか。あと一杯の水を入れればあふれ出すのに、もったいないことです。

君たちの努力も同じです。目には見えませんが、必ず水はたまっています。あふれ出すまで、あきらめずに努力の水を入れ続けることが大切です。 ※道徳資料「あとひとつ」(詫中自作教材)から一部引用

◆ 努力をどう考えるか ◆

子どもの「努力のメカニズム」を明らかにしておく必要があると思います。子どもたちができなかったことができるようになるときは、何もしないでいて「あっ」とひらめいてできるようになるわけではないのです。できない、できない、できない・・・が続いていて、あるとき急にできるようになるのです。これはひらめきが訪れるのではなくて、できなかった間にずっと蓄えられた見えない力があるわけです。努力することによって見えない力が蓄積されて、あるときそれがあふれ出す。そのときに、できるようになると考えるとわかりやすい。できなくてわからなくて、努力しているときはつらいですね。でも、この努力のメカニズムがわかっているならば、子どもたちはつらくとも我慢して取り組むことができます。できなくてあきらめてしまう習慣を子どもの中に作ってはいけないのです。できない状態が続いているけど、「努力している間、自分の中にたまっている見えない力があるのだ、それが限界点までたまると、できるようになるのだ」ということを、子どもたちに徹底させる必要があります。

※「子どもも親も幸せになれる校長先生の言葉」生活文化編集部編(集英社2008年発行)から抜粋

ようこそ！先輩

今日から6月22日(金)までの3週間、本校の卒業生2名が教育実習生として来られます。本間智大先生(保健体育、2-4)、真鍋咲季先生(音楽、2-3)です。これから「先生」という夢を目指すにあたって、“はじめての教え子”となるみなさんの笑顔と純粋な心が、夢への大きなエネルギーとなるはずですよ。